

事務局 350-0824 川越市石原町 2-48-16 Tel・Fax 049-224-2202 Email m-harada@pop.kcv-net.ne.jp

発行：原田守雄 編集：大野 登 佐々木文世 中澤 博

新年のごあいさつ

委員長 原田 守雄

新年明けましておめでとうございます。昨年は、震災や原発事故とさらに経済面でも不安な一年でしたが、「一陽来復」を願って誰もが新しい年を迎えたことと思います。

さて、埼玉県本部も 1973 年（昭和 48 年）に発足以来、来年は 40 周年の節目を迎えようとしています。先輩並びに会員皆様のご尽力で大きく発展してまいりました。近年、高齢化や社会的なニーズの多様化に伴って、全国的にも会員の減少傾向が見られますが、本県でも決して安心していられる状況ではありません。今回の震災を機に、記録としての写真の価値が見直されていますが、全日写連が会員相互の「絆」と「和」をもって、広く写真の良さを伝えていく必要があると思います。

今後とも魅力ある組織として、会員皆様のご活躍にご期待するとともに、本年も宜しくお願いいたします。

2月14日から「埼玉の自然」入賞入選作品展**応募、1,000点を越える**（石橋関東本部委員）

第 26 回 私がみつけた「埼玉の自然」フォトコンテストの応募者数は 455 名、作品数は 1030 点（内高校生 5 名 10 点）で、昨年を応募者数で 36 名、作品数で 103 点上回りました。

12 月 6 日（火）、さいたま総局で清水公代、金井三喜雄（以上関東本部委員）、小澤貴也（エプソン販売）、吉岡真司（ニコイメージングジャパン）の 4 氏による厳正な審査が行われ、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、特選 3 点、準特選 20 点、奨励賞 20 点、入選 101 点が決定しました。

入賞・入選作品展は、2 月 14 日（火）から 19 日（日）まで埼玉県立近代美術館において、表彰式は 18 日（土）同美術館講堂で開催されます。

入賞・入選者 147 名は裏面に掲載の方々です。

冬の例会は 2 月 25 日（土）（松本副委員長）

県本部秋の例会は 10 月 29 日（土）埼玉県民活動総合センターにおいて開催されました。出席者は 46 名、作品の出品点数は単写真 71 点、組写真 33 点でした。

冬の例会は 2 月 25 日（土）、午後 1 時 30 分から同センターで開催されます。

「頑張る家族の肖像」写真撮影プロジェクト

全日写連は福島県相馬市で、東日本大震災で被災された方々に「頑張る家族の肖像写真」を撮影してプレゼントするプロジェクトを、昨年 11 月から今年 1 月までの週末に実施中です。ボランティア募集の呼び掛けに応じて、埼玉からは林喜一総本部理事をはじめ石橋哲子、箕田勇、川村勝己、保科幸裕、内山勝子、佐藤親正、新井傳、新井房子、卯木郁朗、庵地紀子、相澤勝寿、古怒田潔、原文男、内山龍雄、福田年男、福田かつ子、菊地博子、山崎弘英さん 19 名が参加します。

林理事が写真教室講師を担当

関東本部では、総本部理事林喜一先生が講師を担当される「デジタル写真教室」（1 月 15 日から全 4 回）を、朝日新聞築地浜離宮ビルで開催します。

定員は 30 名で、会費（9,500 円）のなかに、全日写連の入会金・初年度会費が含まれているのが特色で、すでに定員を上回る申し込みがあり受付を締め切りました。

増田顧問の講演会開催される

10 月 22 日（土）の県本部委員会に続いて、県本部顧問増田明弘先生の講演会が開催されました。「埼玉県本部 40 年の歩み」と題して、設立当初から県本部の運営に関わった貴重な体験を披露されました。講演内容は 3~4 ページに掲載しました。

増田顧問がフォトアサヒに執筆

フォトアサヒ新年号から 3 回にわたって、県本部顧問増田明弘先生による「組写真の作り方」が連載されます。

増田先生は「単写真だけでなく、組写真を組むという経験を積み重ねて、自分の感性を養っていただきたい」と語っておられます。

国際写真サロンに 2 名が入選

第 72 回「国際写真サロン」（連盟主催）は、海外 41 国・地域から 6125 点、国内 3285 点、総計 9410 点の応募があり、田沼武能会長ら 12 名により審査が行われました。埼玉は応募者数 34 名、応募点数 223 点で、入選者は黒澤雍弘、原文男さんの 2 名でした。

東京スカイツリー試験点灯撮影に協力

12 月 23,24 日の東京スカイツリーの試験点灯に、朝日新聞東京総局から写真撮影の協力依頼があり、佐藤親正 箕田勇 古怒田潔 木村英二 中澤博 渡邊章 大野登の皆さんが各地から撮影した写真を提供しました。

埼玉県本部撮影会・埼玉の自然フォトコンテスト協賛
エプソン販売（株） <http://www.epson.jp>

第26回埼玉の自然フォトコンテスト受賞者（敬称略）

○最優秀賞 小山憲一 ○優秀賞 日高猛 小林敏征 ○特選 保谷栄一 三好紘一 高山正一 ○準特選 新堀勝彦 山崎光隆 重原泰代 小林礼子 古峰昌子 仲弘子 鈴木博子 金益隆志 赤荻丈夫 又賀義信 豊田和代 清水満 野崎英一 後藤やす子 大熊文也 大野隆一 岡地英男 金子ひろみ 新井傳 佐藤昌市 ○奨励賞 岡部蝶子 小川芳明 沖館宏 山原敏子 田村真由美 大澤利子 市川和代 畑中徹 大山利雄 原文男 桜井百合子 小林伸一 酒井理吉 山口晴一 龍澤豊文 桜井恒夫 弓田吉男 鈴木憲 伊藤香世子 小室富一 ○入選 大沢貴 黒沢雍弘 成田吉貞 向井三陽 海老澤正嗣 伊佐勝男 平林芳子 堤妙子 関邦義 萩原幸作 谷島澄代 服部清次 佐々木文世 岡田竹次郎 北村照子 船生利雄 土肥秀男 天野宏 岡部美智子 飯塚勝弘 新井房子 斉藤憲子 進藤恵美子 松本充夫 中村千恵子 安永匡隆 佐藤清一郎 小峰弘次 若林弘勝 中村隆 戸田利一 加藤和代 荒井文治 井上泰江 熊本淑子 用田弘文 柳川忠 田口正平 菅間勇 矢野栄一郎 大坪弘人 内山勝子 横谷廣夫 杉本純子 川村勝己 中島清子 山川隆之 重原正紀 高橋洋司 安井泰三 小林光江 高橋稔 山口欽一 堀之内稔 上村東毅 白鳥正之 桜井孝子 田中剛 村野隆治 池田紘治 野村悦夫 熊田繁夫 羽染厚子 前田勇 三上明美 佐手英夫 粕谷しづ江 石井常雄 谷森正之 首藤凱宏 稲村淳 小幡清子 北内毅 相澤勝寿 濱田英二 庵地紀子 松澤江津子 小松崎武美 大澤秋良 金子昭 藪内邦夫 高尾廣志 高橋裕子 箕田勇 関口清四郎 山崎雅光 小久保武文 久我忠 峯岸征治 加藤智 小島文夫 齋藤たつみ 小峰英二 高橋鉄雄 田中勝秋 大滝公文 笠原和子 掛川勝一 木野内浩平 増田益子 小俣嘉希（高校生）

埼玉の自然フォトコンテスト・
埼玉県本部撮影会 協賛
スタート・ラボ（株） <http://startlab.co.jp>

県本部撮影会の入賞者決定！（佐藤関東本部委員）

県本部主催「桜枝岐歌舞伎」と「尾瀬の自然」撮影会のコンテストは、71名から571点と多数の応募があり、林喜一総本部理事の審査により受賞者が次の方々に決定しました。表彰式は10月22日（土）午後4時からさいたま総局会議室で行われ、協賛会社のエプソン販売、スタート・ラボから沢山の賞品が贈られました。

○最優秀賞 古怒田潔 ○優秀賞 池田一郎 ○朝日新聞社賞 中澤博 ○全日本写真連盟賞 新井房子 ○朝日新聞さいたま総局長賞 川村勝己 ○全日写連埼玉県本部委員長賞 萩原幸作 ○撮影会賞 小林千津子 服部清次 船生利雄 藤野秀夫 鈴木博子 堀越力男 ○御池ロジック賞 牧野匡邦 堀之内稔 ○準優秀賞 新井傳 古出富子 荒井文治 田村真由美 島津典祐 内山賢治 高橋稔 佐々木文世

埼玉県写真サロン・埼玉の自然フォトコンテスト協賛
（株）ニコン イメージングジャパン <http://www.nikon-image.com>

▽ 大沢紘一 三浦喜代子 松本浩直 濱田英二

○入選 佐々木節子 谷島澄代 渡辺章 岡安宏典 小林光江 小林伸一 中山栄子 吉田和夫 山口欽一 廿日岩圭子 白鳥正之 岸房子 阿倍誠子 弓田吉男 斉藤憲子 中村千恵子 益田穰二 白石荘 藤浪康義 卯木郁朗 日吉直 大澤秋良 佐々木康益 田村公司 藤森糸子 中村夏夫

写真展のご案内

第16回 すいよう支部写真展

会期：1月19日（木）～25日（水）10：00～18：00
（初日は12：00から、最終日は17：00まで）
会場：上尾市民ギャラリー（上尾駅東口アリオパール館2F）
連絡先 048-781-0587（川村勝己さん）

第12回 女性支部写真展

会期：1月26日（木）～30日（月）10：00～17：00
（初日12：00から最終日は16：00まで）
会場：埼玉会館 第2展示室
連絡先 048-725-2820（石橋哲子さん）

第8回 熊谷中央支部写真展

会期：1月26日（木）～31日（火）10：00～19：00
（最終日は16：00まで）
会場：オープンギャラリー熊谷（八木橋8階）
連絡先 048-522-2883（浜島捷晃さん）

第2回 東松山支部写真展

会期：2月7日（火）～12日（日）10：00～17：00
（初日は12：00から）
会場：松山市民活動センター 展示ホール
連絡先：0493-22-2347（安藤正さん）

第5回 デジタルアート支部作品展

会期：2月14日（火）～19日（日）9：00～17：00
（初日は12：00から、最終日は16：00まで）
会場：川越市立美術館 市民ギャラリー
連絡先 049-231-2598（原文男さん）

第8回 ネーチャーフォト支部写真展

会期：2月19日（日）～23日（木）10：00～17：00
（初日は13：00から、最終日は15：00まで）
会場：戸田市文化会館 展示室
連絡先：049-232-9455（渡辺章さん）

第14回 彩北支部写真展

会期：3月1日（木）～4日（日）9：00～17：00
（最終日は16：00まで）
会場：加須市 パストラル かぞ 展示室
連絡先：0480-62-5941（佐藤親正さん）

第4回 全日本まつりフォトコンテスト写真展

会期：3月17日（土）～29日（木）10：00～19：00
会場：朝日新聞東京本社 本館2階コンコース

講演「埼玉県本部 40 年の歩み」

講師 増田 明弘 埼玉県本部顧問

平成 23 年 10 月 22 日(土)

朝日新聞さいたま総局会議室

(司会) 林 喜一 総本部理事

本日は、増田明弘先生から、埼玉県本部の初期の歴史を中心にお話しいただくことになりました。増田先生が県本部の委員長をされている時に、県本部のホームページを開設したのですが、全国でも早かったように思います。また、テレビ埼玉に週 1 回、10 分間の全日写連の番組を持ち、5 年間続きました。さらに現在も続いている全日写連グラフコーナーもこの時にはじまりました。

今年の初め増田先生から、「写真に対する情熱はまだまだ変わりなく、埼玉県本部に対する気持ちは今まで以上に持ち続けて行きたいが、ここで関東本部委員を卒業させてもらい、次の若い人達にバトンタッチして、全日写連全体のさらなる活性化のお役に立ちたい」と自ら卒業の意向をお話し下さいました。私の心の中には「いやそれは待ってほしい」との思いもありましたが、連盟の全国組織にかかわる自分の立場を考えると、先生のご意向は大変説得力を持っており、他都道府県もぜひ右へ倣いをしてほしいというご英断であると考え、承ることにしました。

本日は、増田先生から県本部の基礎づくりの苦心談をおうかがいし、今後の県本部の活動の指針にしたいと思えます。

では、増田先生よろしくお願ひします。

(講演) 増田 明弘 埼玉県本部顧問

過分なご紹介をいただき恐縮でございます。

さて、埼玉県本部が設立されて早くも 40 年余（正確には 38 年）になりますが、この間の歴史が記録としては全く残っていないので、本日は私の記憶を辿り、設立当初のことからお話をしてみます。

(初代 清水武甲委員長の時代)

「全日本写真連盟埼玉県本部」は、昭和 48 年（1973 年）に発足しました。初代の県本部委員長を熊谷支部長の八木橋信吉先生にお願いしたところ、先輩の秩父支部長の清水武甲先生を差し置いてはできないと断られました。そのため、当時の朝日新聞埼玉支局長、敏蔭英三先生と私の 3 人で清水先生にお願いして、お引き受けいただきました。

県本部の設立に参加し、現在も活動中の支部は、秩父（昭和 27 年設立）、浦和・川口（昭和 35 年設立）、越谷（昭和 44 年設立）、および熊谷（昭和 45 年設立）の 5 支部です。

清水先生の県本部委員長在任は、22 年間に亘りました。

この間に設立され 現在も活動中の支部は、川越（昭和 58 年）、戸田（昭和 64 年）、フォト茜（平成 4 年）の 3 支部です。

また、主な事業としては、設立当初から「県本部撮影会」が毎年開催されたほか、昭和 50 年から「埼玉県本

部展」（昭和 59 年から「埼玉県写真サロン」に改称）が、昭和 61 年から「埼玉の自然フォトコンテスト」が始まり今日に至っています。

清水先生の功績は大きく、私たちに多くの影響を与え、素晴らしい先生でございましたが、在任期間は少し長すぎると感じていました。

清水先生は在任中にご病気になられましたが、その清水先生を支え、埼玉県本部の組織を維持したのは敏蔭先生の功績によるものでした。県写真サロンなど大きな展覧会の審査は、清水先生のご自宅まで作品を持って伺い審査をしていただくなど、敏蔭先生は足しげく秩父まで通われました。

(第 2 代 敏蔭英三委員長の時代)

平成 7 年（1995 年）1 月、清水先生がお亡くなりになり、敏蔭先生が第 2 代県本部委員長に就任しました。県本部委員長を引き継いだ敏蔭先生は、過去 22 年間の内部整理に追われ、そのために多くの時間を費やすことになりました。

私もそのお手伝いをしましたが、この時の経験から県本部委員長の任期は、2 期 4 年が適当ではないかと話し合い、私の委員長時代になって、原則として委員長の任期は 2 期 4 年とする申し合わせができました。

平成 10 年、敏蔭先生は県美術協会の写真部会長に就任することになり、県本部委員長との兼任は適当でないとお考えから退任されました。

敏蔭先生の在任中は、平成 7 年に すいよう支部、平成 8 年に彩北支部が設立され 12 支部になりました。また、この間、現在も県本部のメイン事業である「県本部例会」がスタートしたほか、写真セミナーが開催され、平成 9 年には「第 4 回シニア写真セミナー（講師細江英公氏）」が開催されました。

(第 3 代 増田明弘委員長の時代)

平成 10 年（1998 年）に、私は第 3 代県本部委員長を敏蔭先生から引き継ぎましたが、委員長に就任したとき、先ず他都道府県に先駆けて、県本部の運営を組織化しようと考えました。当時は、まだデジタル写真は日本では言葉だけの時代でしたが、林喜一先生のようにデジタルに詳しい方がいたので、第 1 に「デジタル写真の発展、普及」を、第 2 に「女性支部の設立」を、第 3 に「会員数の増加」を目標に掲げて、県本部の組織的な運営を進めました。

初回の「デジタル写真講習会」は、林先生に講師をお願いして指導者養成を目的に平成 10 年に開催し、以後同好会、研究会組織に発展させ継続しました。この時の参加者が現在、県本部の中心的存在になって活躍しているわけです。

女性支部は、「女性だけの写真教室」を平成 11 年に 2 回、翌年に 1 回実施しました。この参加者を会員に取り込んで女性部会を発足させ、さらに新支部設立にもっていき会員増につなげました。

このほか、平成 10 年、テレビ埼玉に毎週約 10 分間、県本部の番組を持ち、全日写連事業の PR とともに、会員が交替で出演して作品を発表しました。この番組は以

後 5 年間も続きました。また、平成 12 年には朝日新聞埼玉版に「全日写連グラフ」のコーナーが確保でき、会員の作品と全日写連の紹介記事の連載が始まりました。平成 13 年には県本部のホームページを開設し、インターネットを利用した情報発信を他県に先駆けて開始しました。このようにテレビ、新聞、インターネットなどを活用した新しい事業の効果もあって、口コミによる各支部への入会希望者も増えてきました。

支部および会員数は、私の県本部委員長時代になってから急速に増え始め、次の坂巻高次先生および林先生、原田守雄先生の委員長時代へと続き、最近の 15 年間にピークを迎えました。

私は、県本部の組織化を林先生とペアを組んで進めました。林先生は私の相談に乗ってくれ、アイデアを出してくれたので、組織の基盤作りを進めました。

新しい支部は、平成 11 年に彩南、ふあいん、平成 13 年に春日部、女性、西武、MAP21 が設立され 18 支部に増えました。

（第 4 代 坂巻高次委員長の時代）

平成 14 年（2002 年）、私は 2 期 4 年の任期をもって退任し、坂巻先生が第 4 代県本部委員長に就任しました。坂巻先生に委員長就任をお願いしたとき、身体の具合が悪いから無理といったん断られましたが、1 期だけでもお願いし引き受けていただきました。

私は、県本部顧問に就任し写真教室事業を担当することになったので、会員のレベルアップのための研修会と、会員増加策として一般を対象にした写真教室を計画しました。平成 14 年には、新聞公募に応じた 200 名を対象に「自然写真教室」を開催、自然風景写真の撮影技術を指導し、支部の設立につなげました。

坂巻先生の在任中、平成 14 年に大宮支部、彩央支部が、平成 15 年に東浦和支部が設立され 21 支部になりました。また、平成 15 年 4 月には、朝日新聞社および連盟から、埼玉県本部の活動実績が評価され、「全日写連奨励賞」を受賞するという栄誉に浴しました。

（第 5 代 林 喜一委員長の時代）

平成 16 年（2004 年）、坂巻先生が退任し、林先生が第 5 代県本部委員長に就任しました。林先生の時代に県本部の組織は、さらに肉付け、充実されて現在の形が出来上がり、関東本部の中でも注目される県本部組織になりました。

平成 16 年 4 月、県本部の事業内容やニュースを会員に周知するために、県本部会報が創刊されました。以後、現在も年 4 回の発行が続いています。会員増を目的とした一般公募による写真教室は、平成 16 年に「初心者向けデジタルカメラ教室」（応募 346 名）、平成 17 年、「第 2 回デジタルカメラ教室」（応募 300 名）を開催し、新支部結成につなげました。

平成 18 年には、横浜市内で全日写連 80 周年記念事業の最大イベント「こどもの国撮影会」があり、埼玉県から 618 名が参加しました。また、帝国ホテルでの 80 周年記念式典では、敏蔭先生、坂巻先生とともに私も功労者として表彰を受けています。

平成 19 年 3 月の総会には全日写連会長の田沼武能先生をお招きし、講演会、懇親会を県民活動総合センターで開催したのも大きな出来事でした。

支部の設立はますます進み、平成 16 年に熊谷中央、ネーチャーフォト、平成 18 年にデジタル、デジタルアート、フォト 80、平成 19 年に彩西支部が設立され 27 支部になりました。

（第 6 代 原田守雄委員長の時代）

平成 20 年（2008 年）、林先生が退任し、原田守雄先生が第 6 代県本部委員長に就任、現在に至っています。組織的に確立した県本部を引き継いだ原田先生のご苦勞は大変だったと思いますが、この充実した状態を維持、発展させているのが現状です。

原田先生になってからの主な事業は、平成 20 年に「今さら聞けないデジタルカメラ教室」を、平成 22 年、県北地区の熊谷で「デジタル一眼カメラ教室」を開催しました。このほかの事業としては「県本部ホームページ」のリニューアルや、初めての試みとして所沢市で「県西地区個人会員の集い」が開催されました。

支部の数は、平成 21 年にデジタルスクール、所沢、平成 22 年に彩友アート、東松山、平成 23 年に SKP 支部の設立がありましたが、一方で、高齢化による会員の減少で支部の維持が困難になったとして平成 21 年に鳩ヶ谷（平成 4 年設立）、平成 23 年に写楽フォト支部（昭和 56 年設立）が解散したため、30 支部となっています。

また、平成 22 年に埼玉県本部は、朝日新聞社、連盟より 2 回目の「全日写連奨励賞」を受賞しました。

（むすび）

振り返ってみると、私の県本部委員長就任以降、この 15 年間で埼玉県の支部、会員数は考えられないような増え方をしましたが、最近の他都道府県の数字を見ると逆に信じられないほど落ち込んでいます。埼玉県もわずかに減少していますが、皆さんがもうひと踏ん張り努力していただければ、挽回可能な数字です。

また、平成 19 年に林先生が関東本部委員長に就任されましたが、これは埼玉県本部にとっても名誉な出来事でした。その時私にも協力の打診がありましたので、ぜひお願いしますと申し上げ推薦した記憶があります。林先生は能力に優れ、ことにデジタル写真知識の第 1 人者であり、新しい関東本部委員長に不可欠な条件、実力を備えており、歴代委員長の方々には失礼ですが、林先生でなければこの時代は乗り切れないと思いました。さらに今年は、林先生が総本部理事に、原田先生が関東本部副委員長に就任されました。埼玉県から中央で活躍する人が 2 人も出たのは画期的なことです。

埼玉県本部の充実した現状を皆さんに引き継いでいただき、さらに持続、発展させていただくためには、今担当している皆さんの活躍にかかっています。ぜひ頑張ってください県本部を更に素晴らしい組織として盛り上げていただけたらありがたいと思います。

県本部の草創期からの歩みは以上のおりです。どうもありがとうございました。

（記録 事務局 大野登・佐々木文世）